

道中理ユースネット

①活動中間報告

②授業実践報告（高松先生）

③授業構想発表（今井先生）





令和7年度の活動テーマ 『運営の教師力向上』

～研修の場づくり・つながりづくり・授業づくり～



令和6年度からのマイナーチェンジ

1. ユースネット通信を HP投稿へ

2. 定例会の企画・運営の分担

(3役中心⇒運営中心の組織へ)

3. 活発な意見交換できる会議運営



令和7年度の活動中間報告

第1回定例会『授業公開』研修

1学期

授業者:高松竜太郎先生(八軒中学校)

学年:3年生

単元:粒子領域「酸・アルカリ」

参加者:13名



令和7年度の活動中間報告

第1回定例会『授業公開』研修

1学期

授業者:高松竜太郎先生(八軒中学校)

学年:3年生

単元:粒子領域「酸・アルカリ」

参加者:13名



後半で報告



令和7年度の活動中間報告

全中理若い理科教師の集い

8月6日

テーマ:『教師も生徒もワクワクする未来の理科を語ろう』

参加者:70名



令和7年度の活動中間報告

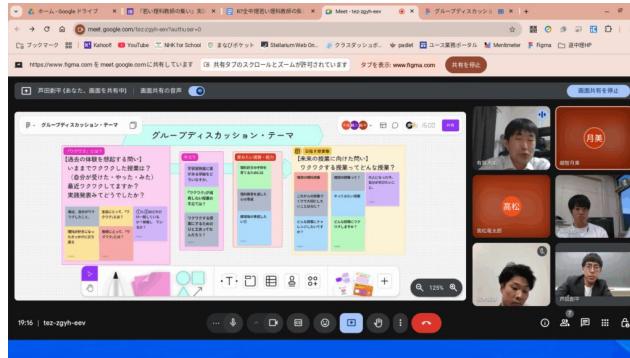
全中理若い理科教師の集い

8月6日

テーマ:『教師も生徒もワクワクする未来の理科を語ろう』

①事前準備

「若い理科教師の集いへの道」としてブログ記事を作成し広報



令和7年度の活動中間報告

全中理若い理科教師の集い

8月6日

テーマ:『教師も生徒もワクワクする未来の理科を語ろう』

②お土産

昨年度の地学巡検研修で採取した岩石(安山岩)とカンラン岩



令和7年度の活動中間報告

全中理若い理科教師の集い

8月6日

テーマ:『教師も生徒もワクワクする未来の理科を語ろう』

③実践交流（道内7名 道外6名 計13名の発表）

発表資料をHPに事前に掲載

質問や意見交流用の

padlet(掲示板)を開設

発表名	所属	お名前
2学年天気分野における 概念的な理解を促す単元構成	札幌市立厚別南中学校	後藤 崇仁先生
3年生物単元における、段階的自由進度学習	旭川市立広陵中学校	宍戸 広太先生
「中核となる知識」に対する コミットメントをさらに高める理科授業	愛知教育大学附属名古屋中学校	奈良 大 先生
自分で拾った石を探究する授業の実践報告	あきる野市立東中学校	武田 舞子 先生

実践交流 意見交換ボードはこちら

■実践交流 ■若い理科教師の集い

ユースネット運営



令和7年度の活動中間報告

全中理若い理科教師の集い

8月6日

テーマ:『教師も生徒もワクワクする未来の理科を語ろう』

③実践交流（道内7名 道外6名 計13名の発表）



令和7年度の活動中間報告

全中理若い理科教師の集い

8月6日

テーマ:『教師も生徒もワクワクする未来の理科を語ろう』

③実践交流（道内7名 道外6名 計13名の発表）



令和7年度の活動中間報告

全中理若い理科教師の集い

8月6日

テーマ:『教師も生徒もワクワクする未来の理科を語ろう』

③実践交流（道内7名 道外6名 計13名の発表）



実践報告形式



参加者同士の対話



令和7年度の活動中間報告

全中理若い理科教師の集い

8月6日

テーマ:『教師も生徒もワクワクする未来の理科を語ろう』

④グループディスカッション

canvaのwebホワイトボード
ディスカッションの記録を
HP上に残し見返せる

①これまでにワクワクした授業は?

実際の座席の場所と同じ枠に付箋を使ってアイデア、お考えをどんどん出してください

スクリーン

先生がワクワクして授業	
自分で決定権のある授業	
比較しない授業	
林達也	
なにか聞きも聞きたときに「なにこれ！」「どうなってるの！」?」というのを絶続けていく授業	施設導入
施設導入	施設を日常生活で活かせると感じられる授業
自分の想定の範囲を超えた考えが見られた	あっという間の50分～もう終わったの？
自分を特許して認識して、正解かどうかに拘らず、自分の考えを自由に表現している	学校でしかできない、見られない一生出会えない機会の出番
吉本清美	吉本清美
吉本清美	吉本清美



令和7年度の活動中間報告

全中理若い理科教師の集い

8月6日

テーマ:『教師も生徒もワクワクする未来の理科を語ろう』

④グループディスカッション

canvaのwebホワイトボード
ディスカッションの記録を
HP上に残し見返せる

② ワクワクするってどんな授業?

体験学習

課題を創り出すワクワク

意外な結果から学ぶへ

日常生活から

日常生活から問題を発見して解決していく

まとめ

雪場は片霧粉?!

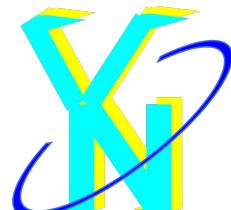
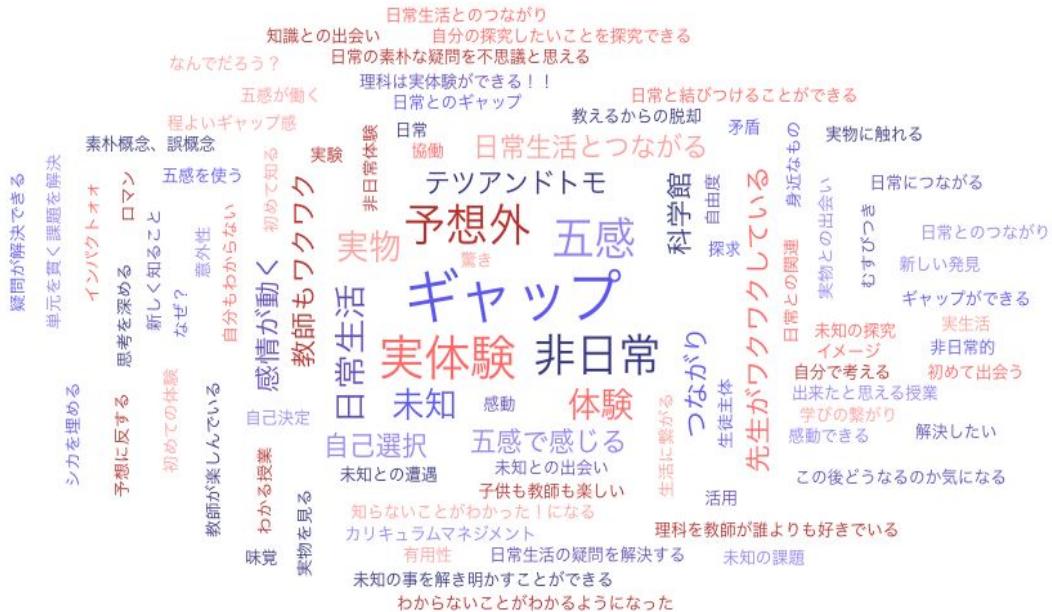
- ホットコーン(地盤変化)
- 音の単元(波見)
- 自由進度で子どたちの自己選択
- 3・4才の毒地図

令和7年度の活動中間報告

全中理若い理科教師の集い

8月6日

テーマ:『教師も生徒もワクワクする未来の理科を語ろう』



令和7年度の活動中間報告

全中理若い理科教師の集い

8月6日

[アンケートから]

- ・大変満足した/満足したとの回答
- ・次年度以降の全中理でも「若手の会」をやりたい という声
- ・全国の先生方と話し合う時間が楽しかった

[開催後]

- ・大会2日目以降も交流が続く
- ・LINEグループでの実践の交流



令和7年度の活動中間報告

全中理若い理科教師の集い

8月6日

「若い理科教師の集い」開催にあたり
事務局をはじめとする先輩方から
たくさんのサポート・ご指導いただきました。
どうもありがとうございました。



令和7年度の活動中間報告

第2回定例会「野草・雑草図鑑」研修会

2学期

場所 : 藤野中学校

ねらい: 学校周辺の野草・雑草を同定し図鑑を作ることで
授業で使える植物に関する知識を身に着ける

参加者: 8名



令和7年度の活動中間報告

第2回定例会「野草・雑草図鑑」研修会

2学期

場所 : 藤野中学校

ねらい: 学校周辺の野草・雑草を同定し図鑑を作ることで
授業で使える植物に関する知識を身に着ける

参加者: 8名



令和7年度の活動中間報告

第2回定例会「野草・雑草図鑑」研修会

2学期

場所：藤野中学校

ねらい：学校周辺の野草・雑草を同定し図鑑を作ることで
授業で使える植物に関する知識を身に着ける

参加者：8名



実際に触れてみなければわからない気づき
教師が没頭する体験



令和7年度の活動中間報告

第2回定例会「野草・雑草図鑑」研修会

2学期



令和7年度の活動中間報告

第2回定例会「野草・雑草図鑑」研修会

2学期



次年度以降も継続し、授業に使える図鑑作りを目指す

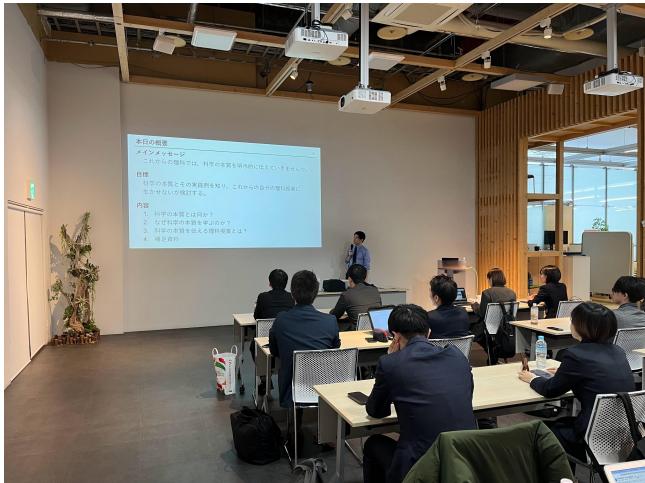
令和7年度の活動中間報告

冬季特別研修会 19名参加

1月10日 午前

講師 : 荒谷航平先生(北海道教育大学)

講義 : 「科学の本質」と授業におけるその扱い



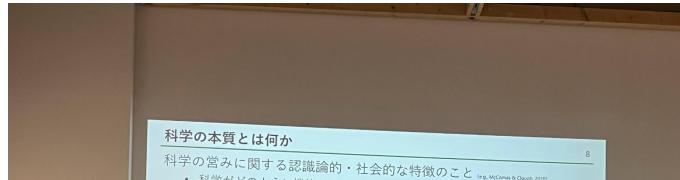
令和7年度の活動中間報告

冬季特別研修会 19名参加

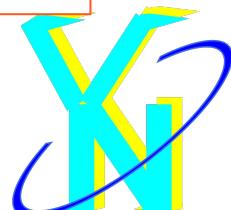
1月10日 午前

講師 : 荒谷航平先生(北海道教育大学)

講義 : 「科学の本質」と授業におけるその扱い



「科学の本質」を明示的に伝えていく必要があるのではないか？



令和7年度の活動中間報告

冬季特別研修会 19名参加

1月10日 午前

講師 : 荒谷航平先生(北海道教育大学)

講義 : 「科学の本質」と授業におけるその扱い



令和7年度の活動中間報告

冬季特別研修会 19名参加

1月10日 午前

講師 : 荒谷航平先生(北海道教育大学)

講義 : 「科学の本質」と授業におけるその扱い



オリエンテーションでどのようなことを生徒に伝える?



令和7年度 今後の活動予定

2月：第3回定例会「授業公開」
今井大貴先生（藻岩中）



令和7年度 今後の活動予定

2月：第3回定例会「授業公開」

今井大貴先生（藻岩中）

[運営で会議を進めていく]

・これからのユースネットをどうしたい？

・「楽しい」研修とは？

⇒次年度以降の年間活動計画





道中理 ユースネット 公開授業報告

札幌市立八軒中学校 高松竜太郎

中学3年生 物質分野

『酸・アルカリと塩』導入

～単元を貫く課題の設定～

主体的な学びに

生徒が主体的に「学びたい」と思えるようにストーリー性のある単元構成にした。本校では生徒の主体的で深い学びを含む、学習意欲向上が課題となっている。



生徒の実態

授業には前向き

- 興味のある内容には、意欲的に質問が出る。
- クロムブックの使用には慣れている。
- 目的意識をもって実験に臨むことができている。
- それぞれの現象が結びつく面白さを感じている。

課題もたくさん…

- 自分の考えを言葉にして表現することが苦手である。
- 与えられたものはよくできるが、課題を見出すことが弱い。
- できた気になっていて、本質的な理解に繋がらない。
- 一定数、諦めてしまう生徒がいる。





目的

本授業のねらい

01

主体性

生徒が自ら考え、問い合わせ、能動的に学習に取り組む姿勢を養う実験道具等も与えられたのではなく、自ら考えて準備する。

02

章を貫く学習課題の設定

学びを深める意義を生徒自身が理解している。
学びのコントローラーを握るのは生徒である。

03

評価

生徒の発言を深めて、広げるために、教師がゆさぶりをかけて生徒の思考を深化させる。

04

言語化

日常の疑問を学ぶ意欲につなげる。
言語化して情報整理につなげる。

授業の展開

導入

試験管についた石灰水の汚れが落ちない ...



課題 試験管の汚れを落とすには、どの洗剤がよいか

- ◆ 洗剤を使って科学的に汚れを落とす。
- ◆ 実験結果を班でまとめる。

『なぜ正解の洗剤だと汚れが落ちるのか。』

- ◆ 酸性の洗剤だとすべての汚れが落ちるのか。
- ◆ どうして汚れによって洗剤を使い分けるのか。

3章を貫く課題

『酸性とアルカリ性の水溶液を混ぜるとどうなるか』



用意した洗剤



- 酸性 ハンドソープ(ビオレ)、トイレ用洗剤(サンポール)、水アカ取り(クエン酸)
- 中性 なんでも洗剤(ウタマロ)、食器用洗剤(マジカ)
- アルカリ性 なんでも洗剤(マイペット)、カビ取り(カビキラー)

授業中の生徒のようす

- ◆自ら進んで実験道具に手を伸ばしていた。
- ◆追実験で自らの課題を検証しようとする姿があった。
- ◆班内での交流では、意見がない生徒がいなかつた。活発な意見交流となった。
- ◆洗剤の成分に興味をもつ生徒がいた。
- ◆他班のようすが気になり見に行っていた。
- ◆授業後もまだ実験を続けようとした班があった。



授業を終えて

前向きに取り組む姿

しっかりと全員で課題をつかめたことで、より生徒が自ら考える場面が増え、主体的に取り組む姿が見られた。習熟度の低い生徒も最後まで粘り強く取り組むことができていた。ねらいの主体性は達成できた。

日常との結びつき

日常で使われている洗剤や調味料を調べてくる生徒がいるなど、日常と科学の結びつきが深まった。とくに学期末清掃の際に、校内で洗剤の質が話題になった。汚れの質を調べる生徒もいた。

グループワーク

普段発言が少ない生徒が、小グループでは 積極的に意見を述べる姿 が見られた。安心して発言できる環境づくりの重要性を再認識した。

改善点

本時においては、調べる方法の検討やどんなことを調べたいか深めさせた方がよかったです。個別に見していくと多種多様な課題が出たため、個別最適な学びにするには時間がもっと必要である。



まとめ



研究授業の成果

生徒の主体的な学習態度の育成や学びのコントローラーを生徒自身が握ることができた。気づきや思考の深化へのアプローチが習慣化した。



重要なポイント

ストーリー性のある単元構成にすることが生徒の学びを深める鍵となった。特に「学ぶ意義」が分かると生徒の主体性が見出される。



今後に向けて

本単元だけではなく、「生徒の思考の流れ」を意識した授業づくりが大事である。生徒の学びを深めるために教師のアプローチ方法を検討する必要がある。
授業研究によって、自分も生徒も学びを深めることができるTRY！



研究討議で出たご意見

- ・2時間構成で方法の検証を深めてもよかったです。
- ・汚れのとれたかの有無が難しい。洗剤の種類は適切？
- ・章を意識しているのがいい。